

OPINION

中部経済新聞

ナビゲーター

日本の多くの読者の皆さんは、規律があり、品質を重視した企業を経営し、あるいは勤務していると思います。それこそ、わが国ジョージア(旧表記ではグルジア)の国民が憧れ、研究しているものです。わたしたちの経済について簡単に紹介します。

まず、驚かれると思います。ジョージアの経済は健全で成長しています。実質GDP成長率は、今年第1四半期で9・1%、3月単独では10・7%に上ります。これはたまたま起きた突出ではなく2021年からは年平均成長率

日本への期待
世界各地から

其
183

小回りの利いた経済圏

が9%を越えています。人口400万人に満たない、地政学的に課題のある位置にある国としては、当たり前とは言えないかもしれませんね。

経済をけん引するのは、活発な銀行融資に支えられた国内需要であり、輸出にあまり依存していない産業です。物品の輸出は前年比で23・4%増加し、国外のジョージア人からの送金は14・2%増えています。外貨の流入は15%に近い伸びを示しています。名古屋市の読者の視点に合わせると、ジョージアの国全体

ジョージアから(上)

の経済規模は、名古屋市単独の総生産(GDP)に及びません。しかし、輸出、送金、外貨流入、すべてが2桁成長を遂げており、ジョージア経済のレジリエンスを示しています。

公共の財政についても同様で、第1四半期でジョージアは財政黒字を達成しました。政府の負債はGDPの31%まで下がっています。この地域では最低のレベルで、ほとんどの先進国と比べても大幅に下回っています。通貨リリは、国際指標に照らして十分な外

貨準備高に支えられ、安定した。原因ははつきりしていません。輸出コストが15%上がつづけています。賃借対照表の観点から見ても、国家財政は上々だといえるでしょう。プラスの面を紹介するだけでは、信頼すべき情報源にはなれません。われわれは明らかに外部からの圧力に晒(さ)されています。ジョージアは、エネルギーを大きく外部に頼り、いまだに石油と天然ガスの大部分をロシアから輸入しています。ウクライナ地域の戦争は、ロシアに寄りかかり続けることでエネルギー価格の高騰と政治的な圧力に晒されることを改めて認識する機会と

なりました。それでもなお、ロシアはわれわれにとり最大のエネルギー供給者であり、価格は世界市場で決まるものです。イラン周辺の紛争でホルムズ海峡が閉鎖され原油価格が世界的に上昇したとき、その影響はジョージアの家庭にいち早く到達しました。

燃料価格よりも深刻な、紛争の二つ目影響は空路で届いています。イランとの直接の関与は最低限で、外貨のやりとりは1%に届きません。実際に影響を受けているのは、観光業です。

【ラシャ・ラバゼ、ニノ・キルタヴァ、リーム中産連】
(月曜日に掲載)